

老視 (ろうし)

主な症状

近くや手元が見にくい。疲れやすい。

どんな病気？

老視(ろうし)とは、いわゆる老眼(ろうがん)のことです。近くでも遠くでも、ピントを合わせる調節力は加齢(=年齢が増加すること)により徐々に少なくなってしまいます。日常生活上の読書距離(約30cm)に、この調節力の減少が影響を与えるようになると手元が見にくくなり老視と呼ばれます。30代後半から少しずつはじまりますが、仕事や生活のスタイルで近くの作業が多い方は早く自覚症状が出ます。特に疲れやすくなったり肩こりや、頭痛をとまなうことも多くなります。

対処Q&A

Q 検査のみ所要時間は？

A 30分

※眼鏡処方の場合+20分

※コンタクトレンズ検査の場合+30分(ただし初心者は装用練習や取扱い説明にさらに50分程度必要となります)

Q 老視・老眼の場合、手元の眼鏡をかけたくないのに、我慢した方がすすみにくいのですか？

A 老視・老眼は残念ながら、一種の老化現象ですから、これに逆らうことは出来ません。年齢とともに進行して行きますので、適切な矯正をして楽にものを見るようにした方が賢明です。逆に我慢することで、近くの作業による疲れや、肩こりをはじめ集中力までおちてしまう場合も多いようです。

コンタクトレンズやメガネ装用者へのアドバイス

老視の矯正はその使用目的や、個人の症状の違いによっての判断が必要となりますので、眼科にてご相談下さい。メガネでの矯正が一般的ですが、コンタクトレンズを装用の上に老眼用のメガネを使用する方法もあります。また、コンタクトレンズの度数を下げて使うこともあります。最近では遠近両用のコンタクトレンズも発売されています。



月額1,890円(両眼)からの定額制コンタクトレンズ『メルスプラン』!

メルスプランは、月額1,890円からの毎月定額の料金で高酸素透過性のハードレンズや新素材シリコーンハイドロゲル使い捨てソフトレンズ(2週間使い捨て)等メニコンの全てのコンタクトレンズから選ぶことができます。新素材シリコーン使い捨てソフトレンズは乾燥を軽減し、ハードレンズ並みの高酸素透過性もあります。また、使用者のニーズや目の状態に合わせて種類変更もできます。

米倉眼科

滋賀県の守山市と草津市の南草津に医院をもち、一般眼科診療、白内障の手術、コンタクトレンズ、メガネ処方などを行っております。

守山本院 TEL 077-583-2134

JR守山駅前西口小島ビル5F 定休日:木曜午後、日曜、祝日

南草津分院 TEL 077-569-1288

JR南草津駅徒歩3分(MNK-3ビル)3F 定休日:水曜日、日曜、祝日